

オオムギ系統保存の基礎を築いた 高橋 隆平



高橋隆平（1910-1999）は京都府福知山市の生まれで、福地山中学校を卒業した後、昭和3（1928）年に、北海道帝国大学予科農類に入学しました。昭和9（1934）年3月に同大学を卒業してから、直ちに農林省農事試験場鴻巣試験地に勤務しました。しかし、僅か一年余りで退職し、昭和10年に財団法人大原農業研究所の助手となり、昭和51年の定年退職までの41年間にわたり研究所に研究・教育で従事しました。

高橋は大戦中の昭和9年から21年の間に、3度中国の東北地方、北部地方と中部地方に出征しました。出征中に馬上から麦秋の中国を見て回り、変わりもののオオムギを見つけては封筒に入れて、研究所に送りました。これが現在のオオムギ系統保存の基礎となっています。高橋はその後も収集を続け、世界各地から4000あまりの栽培品種や200以上の野生オオムギを集めました。

高橋は生涯オオムギ研究一筋で、まさにオオムギ研究の達人でした。特にオオムギ品種の起源、進化とその分布において優れた業績を残しました。50に及ぶ変異主働遺伝子の発見とその遺伝子座の同定、染色体地図の作製に関する研究は世界のムギ研究者の注目を東アジアに向けさせました。またビール大麦の育種にも多大

な貢献をしました。戦後ビール大麦栽培がオオムギ縞萎縮病により危機に瀕したときには、高橋は中国で採集した抵抗性品種「木石港3」を見つけ、その抵抗性遺伝子を用いた抵抗性品種が次々に育成されました。ちなみに、「木石港3」の本当の名前は中国の大石港で採取したため「大石港3」でしたが、送付中に封筒が汚れてしまい、「木石港3」になりました。これらの優れた業績が評価され、1954年に日本育種学会賞、1969年に日本農学賞を受賞しました。また1982年に勲三等旭日中綬章の叙勲を受けました。

高橋は定年退職後も週に2日は研究所に来てセミナーに出席していました。また学生に混じって発表もしていました。研究に向かう態度は非常に厳しい反面、性格は陽気で、カメラを肩に花鳥を追って野山を散策するのが趣味でした。

1999年5月14日に88歳の生涯を閉じました。

（馬 建鋒 分館長編集）

高橋隆平に関する詳しいことは佐藤和広教授の文章（<http://www.rib.okayama-u.ac.jp/profile/ijinden/takahashi.doc>）もご参照ください。